

表彰対象 団体名	所属	消防署南分署警備第2係	消防署警備第2係
	職名	消防吏員	消防吏員
	氏名	大宮 晃一	東 冬麿

推薦者	所属	消防署 署補佐
	職名	消防吏員
	氏名	塩濱 裕之

標 題	第52回 全国消防救助技術大会「ロープ応用登はん」に出場・入賞
-----	---------------------------------

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項 目	内 容
取組概要	消防士長 大宮 晃一・消防士 東 冬麿は、「第52回全国消防救助技術大会」(千葉県市原市)において、「ロープ応用登はん」(2人1組)の種目に奈良県代表として出場し、見事入賞を果たしました。
取組効果	消防の救助技術を競う全国大会に出場し、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮して、見事優秀な成績をおさめました。個々の救助技術の向上だけでなく、組織の活性化や生駒消防の高い救助技術を生駒市民の方々に広報することができました。
創意・工夫した点	訓練の時間の確保等で、署員一丸となって協力体制をとり、また、昨年度には、同種目で別の隊員2名が全国大会へ出場しており、全国大会出場経験者の技術を伝承できる訓練環境を整える中で、その成果が発揮できたと感じています。
推薦理由	「第37回奈良県消防長会消防救助技術指導会」(令和6年6月20日)に出場し、第1位となり、奈良県代表として全国大会に出場しました。 訓練への取組み姿勢及び大会結果は、とても優秀であり、他の職員の模範となるものと考えます。
その他 参考事項	全国消防救助技術大会とは、救助技術の高度化に必要な基本的要素を錬磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的とした大会です。

取組を表す図や表、写真、成果物など



表彰対象 団体名	建設部 みどり公園課 みどり活用係
-------------	-------------------

推薦者	所属	みどり公園課
	職名	課長
	氏名	巽 眞一

標 題	PARK REMAKE QUEST 「MISSION2 ～公園あそび方見本市～」
-----	--

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

項 目	内 容
取組概要	「公園でもっと楽しく遊べる」、「こんな使い方もできる」など、市民等に知ってほしいとして、令和4年に“公園利活用プロジェクト”を開始。同年12月に「MISSION1」として、“セミナー・ワークショップ”を開催。次のステップである「MISSION2」では、公園での「やってみたい」が一挙に終結する“公園のあそび方見本市”を開催(令和6年12月14日)し、マーケットや体験ブース、たき火を囲んでのトーク、パフォーマンスなどを実施
取組効果	「MISSION2 ～公園あそび方見本市～」の来園者は約700人。 来園者からは、「公園でこんなことができるんだ」、「早速、たき火を囲んで楽しみたい」との声が多数あり、また出展者や参加者同士のつながりができました。
創意・工夫した点	市民が主人公となり実現する事業であるため、「MISSION2」では、市内外で活躍する“メンター”の監修のもと、「くつろぎスペース」、「マーケット」、「あそび体験」、「パフォーマンス」のエリアごとに12のブースを出展し、「明日からでもできること」、「許可をとってできること」など見せ方を工夫しました。
推薦理由	地域の身近な公園で、市民が「日常的に気軽に公園でできること」を見せる「MISSION2」では、当日の運営をはじめ、メンターとの打合せ、メンターと出展者との“顔合わせ会”など、運営業務等を全て職員の手で実施し、次につながる成果をあげたことや、職員の強い思いに対しても推薦するものです。
その他 参考事項	メンターの方々は、以前から、職員が公私問わず何らかの形でつながりを持った実践者などで、当日まで何度も打合せを重ねて“見本市”を実現することができました。メンターや出展者のフットワークの軽さや生駒愛を改めて感じる事ができました。今後は、「MISSION3」として、利活用を行う方々の伴走支援をしていきます。

取組を表す図や表、写真、成果物など

「MISSION1」 利活用セミナー・ワークショップの開催
➡公園で「やりたいことの話し合い」、「できることを考える」 ➡“きっかけ”づくり

「MISSION2」 あそび方見本市の開催(公園でできることの周知)
➡プレーヤー候補への喚起 ➡利活用の意識醸成 ➡出展者や参加者のつながり

「MISSION3」 きめ細やかな“伴走支援”
➡許可手続き等の支援 ➡地域との橋渡し ➡アイデアの実現

「MISSION2 ～あそび方見本市～」のようす



表彰対象 団体名	生駒市立生駒小学校
-------------	-----------

推薦者	所属	教育部
	職名	部長
	氏名	鍬田 明年

課題	市内初！生駒小学校がユネスコスクール・キャンディデート校に！
----	--------------------------------

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	生駒市が「SDGs未来都市」であること、R2年度から新学習指導要領にも「持続可能な社会人の育成」が明記されたことから、SDGs学習を進めてきた。R4年度からは、ESD（持続可能な社会の担い手を育成する教育）に重点的に取り組み、「 いこマイタウンプロジェクト 」として、総合的な学習の時間を中心に課題解決型学習を行い、 ふるさと生駒を愛する子の育成 に取り組んでいる。
取組効果	●子どもたちの「地域を宣伝したい」「もっと調べてみたい」という気持ちが育ってきている。 ●地域住民、商店街や近鉄生駒駅、生駒ケーブル等の関係団体・企業、市役所関係課等と連携して、ポスターを掲示してもらい、発表を聞きに来てもらう、出前授業をしてもらう等、地域の活性化の一助となっている。 ●修学旅行では、他県の学校との交流を図り、ふるさと生駒をアピールしている。
創意・工夫した点	○生駒小学校区地域学校協働本部（地域住民、関係団体・企業等）の協力を得て、取組を実施。 ○先進地視察を行うとともに、奈良教育大学の協力を得ている。
推薦理由	地域と連携し国際的な視点を育む教育を推進し、市内で初めてユネスコスクール・キャンディデート校に認定されたこと。持続可能な社会の実現に貢献する同校の教育活動を高く評価するため。
その他参考事項	・ユネスコスクール・キャンディデート校とは、文部科学省による国内審査を通過し、国内でのユネスコスクールとして承認された学校。 ・ユネスコスクールHPIに本校の活動が紹介されている。 ・本校「X(旧ツイッター)」にも取組を掲載。右記QRコード参照。 

取組を表す図や表、写真、成果物など

ユネスコスクール加盟 国内審査 結果通知書

令和6年6月4日

生駒市立生駒小学校長 殿

ユネスコスクール事務局
(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 内)

2024年2月までにチャレンジ期間を満了し、ユネスコスクール加盟国内審査に申請された貴校の結果は、下記のとおりとなりましたので通知します。
審査委員会からのコメントを添付しますので、御参照ください。
なお、本結果通知の写し及びユネスコスクール・キャンディデートの承認通知が文部科学省より各教育委員会等に送付される予定です。

記

ユネスコスクール加盟申請国内審査結果	通過
審査委員会による評価	9点

※通過基準は以下のとおりです。
必須項目（3点）＋努力項目（1～7点）＝合計10点満点
・6点以上（必須項目3点含む）：通過
・6点未満：非通過（必須項目が2点以下の場合、合計点数にかかわらず非通過となります）



表彰対象 団体名	教育部 教育政策室 教育指導課
-------------	-----------------

推薦者	所属	教育部
	職名	教育部長
	氏名	鋤田明年

課題	生駒市の学校・幼稚園・保育園で働きませんか？ いこま教育・保育資格バンクを創設！
----	--

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	昨今の教育現場の教員不足に対応すべく、教員免許・保育士資格・司書だけでなく児童発達支援士や発達障害児支援士など、教育や保育に関する民間の資格を持ち、教育現場での勤務に興味を持つ方がLINEから登録。登録された方の資格に合わせた仕事の紹介や、登録者対象のセミナー情報をラインにて配信。
取組効果	新年度開始時の講師採用や特別支援教育支援員など教育現場にかかわる人材の採用ができた。加えて教育や保育に関する資格をもった方を包括的に募集することにより、年度途中の学校現場の急な講師採用にも登録者から採用をすることができた。LINEには288名の登録、詳細のプロフィールは168名が登録(令和6年12月現在)。また、市内在住者に向けた雇用の創出にも繋がった。
創意・工夫した点	前年度実施の施策(生駒市学校園就労相談会)により、市内在住の30～60代女性に教員免許や保育士資格保持者が多くいることが分かっていたため、対象の方々がよく訪れる市内の約100店舗(スーパー、コンビニ、ドラッグストア、クリニック等)にポスターの掲示を依頼。また登録後にすぐに学校園での仕事の紹介に繋がれるよう、教育総務課(学務係)と連携し学校現場の不足に迅速に対応する体制にした点。
推薦理由	教員不足に対し、多くの方が利用しているSNSを用い、資格を持つ方を登録できる仕組みを構築したこと。包括的に募集することにより、教育現場における様々な職種を紹介・採用し教員不足の改善に寄与したこと。
その他 参考事項	メディア報道 ・教育新聞「教員不足解消へ独自登録バンク 奈良県生駒市で不足0に」(令和6年4月12日) ・日本教育新聞「人材バンクで教員を確保 奈良・生駒市教委」(令和6年4月22日) ・AERA[巻頭特集]教員が忙しすぎる 学校をよりよくする現場の試みと生の声(9月30日号) ・東洋経済education×ICT「生駒市が独自の人材バンクで「講師不足」解消、従来の登録制度と何が違う？」(令和6年12月14日)

取組を表す図や表、写真、成果物など

生駒市の学校・幼稚園・保育園で働きませんか？

登録者募集！

いこま教育・保育資格バンク

「今すぐ」じゃなくて大丈夫

ご登録は公式LINE

【お問い合わせ】
生駒市教育委員会事務局教育政策室
0743-76-1111(内線2731)

表彰対象 団体名	幼保こども園課 デジタルイノベーション推進課
-------------	------------------------

推薦者	所属	教育部
	職名	次長
	氏名	松田 悟

標 題	入所手続きを便利に！ 保育所・認定こども園の入所申し込みのオンライン化
-----	-------------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（	）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	---

項 目	内 容
取組概要	・公立・私立の保育所・認定こども園の入所申込みは、手書きの入所申込書と必要書類とともに市役所に来庁して提出や書類確認の必要があった。 ・保護者の利便性向上のため、令和7年4月の保育所等の一斉入所申込み（令和6年10月受付分）から、オンラインでの申込みを開始
取組効果	・保護者が来庁しなくてもスマートフォン等から、24時間いつでも・どこでも入所申し込みが可能に ・スマートフォン等をお持ちでない方等のために、市役所窓口で端末を用意し、職員が入力サポート等を実施 ・入所申込みのオンライン化により、保護者の利便性の向上だけでなく、毎年約1,000件分のデータ入力や事務処理の効率化により、職員の負担軽減に
創意・工夫した点	・入所申し込みに係る手続きの整理を行い、簡単にアンケート形式で回答できるよう工夫 ・別途、費用をかけずに既存のアンケートシステムを利用して実施 ・入所説明会の内容もYouTubeで配信
推薦理由	・毎年、10月下旬～11月上旬は担当課の窓口で乳幼児を連れて保護者の行列ができ、長時間お待ちいただくことが多かったが、大きく利便性の向上に寄与した。
その他 参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など

市役所

申請書

入力フォーム

令和6年度保育所等入所申請フォーム

以下、5点について必ず読んでください（読了目安：7～10分間）

1. 〈申請を行う前の〉事前準備について
2. マイナンバーおよび本人確認書類の別途提出について
3. フォーム入力の注意事項
4. 申請における誓約事項
5. 重要事項説明

【1. 〈申請を行う前の〉事前準備について】

・本申請の対象は、生駒市に“在住”または“入所”

手続き画面と手続きのイメージ

表彰対象 団体名	教育部 幼保こども園課 生駒市立ひがし保育園
-------------	------------------------

推薦者	所属	教育部
	職名	次長
	氏名	松田 悟

課題	子どもと共に “えすでいじーず”ひがし保育園の取り組み
----	-----------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	私達が住んでいる地球では今、貧困・飢餓・温暖化・エネルギー・安全な水・ジェンダー平等・平和と公正などの困ったことや考えていく必要があるものがたくさんあります。世界のみんなが安心してずっと幸せに暮らしていけるよう、世界で決めた17の目標がSDGs！そこで「保育園で何ができる？」を考えて取り組んでいます。
取組効果	子ども達がSDGsという言葉と共に世界のどこかで起こっている事象を知って「え！今もなん？みんなで出来ることあるんちゃう？」と、気づきと考えが生まれている。また、物を大切に扱う事や資源を無駄なく使おうとするなど、少しずつ子ども達の姿が変化してきている。
創意・工夫した点	・子ども達がアイデアを出し合う機会づくりや子ども達と一緒に資源の分別を行ったり、廃材を含めた物を繰り返し使う機会の創出など、日々の園生活の中で自然な取り組みとしている事。 ・保育園で用意した廃材だけでなく家庭にも協力してもらい、保護者の方に取り組みを知ってもらう事。
推薦理由	就学前の子どもたちに対して、持続可能な未来を築くための青写真となるSDGsを意識してもらうため、普段の保育の中で各目標を自然に接することができるよう工夫し取り組みを続けられている。
その他参考事項	公立4ヶ園の共通の学びの場である「生駒市人権学習会」において、SDGsをテーマに令和4年度から継続した取り組みを続けている。

取組を表す図や表、写真、成果物など
① SDGsって何？ パネルシアターを通して、知ることから始めた。   
② 色々な廃材（ペットボトル・牛乳パック・空き箱・段ボールなど）を利用して、作って遊んでいる。      
③ 自分選で育てたジャガイモを食べたり、皮を使ってパンダナを染めたりした。    
④ 身近で自分達の出来る事を考えている。   
⑤ 家庭に協力してもらい、共に行っている。

表彰対象 団体名	建設部 事業計画課 交通対策係
-------------	-----------------

推薦者	所属	建設部 事業計画課
	職名	課長
	氏名	谷 英也

標 題	生駒市初！グリーンスローモビリティ「はぎくる」が 実証運行開始
-----	---------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（	）
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	---

項 目	内 容
取組概要	住宅開発から40年が経過し、高齢化率が50%を超え、オールドニュータウン化が進む萩の台住宅地において、より地域に適した移動手段の検討として、グリーンスローモビリティを用いた地域によるボランティア輸送の実証実験を行っている。
取組効果	萩の台駅や自治会館までの地域住民の移動手段確保にとどまらず、当該地域で進められている様々なまちづくり(住み開きやいこーえん活動等)と連携を図り、グリーンスローモビリティで地域拠点を「つなぐ」ことで、相乗効果により各事業の効果を増大・発展させ、地域活力の一層の増進を図り、持続可能な次世代の住宅地づくりを推進している。
創意・工夫した点	萩の台住宅地は、国が推進する「脱炭素先行地域」に選出された、生駒市における住宅都市モデル地域であり、市の目指す複合型コミュニティの活性化のため、様々な取組を行っており、それらの取組みを「つなぐ」手段として、ECOな乗り物として国内で普及しつつある「グリーンスローモビリティ」を活用することで、より一層の脱炭素をめざす。また、将来的には、電気の地産地消も目指せる環境を創っている。
推薦理由	これまでの、市内の公共交通(移動手段)は、鉄道・バス・タクシー事業者により提供されるもののみであったが、このグリーンスローモビリティ『はぎくる』は、地域が主体となって、自らの移動の困りごとを解決することができる、全く新しい取組みであり、まさに市民(地域)と行政との共創モデルであるといえる。
その他参考事項	国の「地域公共交通確保維持改善事業(共創・MaaS 実証プロジェクト)」に採択されたモデル事業

取組を表す図や表、写真、成果物など



表彰対象 団体名	建設部 事業計画課 交通対策係
-------------	-----------------

推薦者	所属	建設部 事業計画課
	職名	課長
	氏名	谷 英也

標 題	いこま公共交通まつり2024
-----	----------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

項 目	内 容
取組概要	・公共交通の利用促進・啓発イベント「公共交通まつり2024」をどんどこまつりと同日開催（運転手なりきり撮影会／缶バッジ作り／鉄道・バスグッズ販売会等） ・1乗車100円で市内バスが利用できる利用促進イベント「バス運賃100円DAY」や、市内をバスや電車で回る「バスで周遊！いこまスタンプラリー」を同時実施
取組効果	・ブース来場者約2,300人 スタンプラリー参加者155人 ・通常日と比べ 約1.7倍のバス利用者増 ※8/5どんどこまつり実施日 ・アンケートにより、スタンプラリー参加者の約80%の方がバスが身近になったと回答
創意・工夫した点	・公共交通に馴染みがない人に、公共交通利用の“きっかけ”をつくる ・子どもの参加意欲を高めるため、スタンプラリー景品にバスカードを配布 ・子育て世代をターゲットとし、長期利用者の獲得を図る ・近畿日本鉄道(株)や奈良交通(株)と連携実施 公民連携による公共交通 利用啓発
推薦理由	・公共交通の持続性が大きく揺らいでいる現状を受け、市と交通事業者が相互に連携し、昨年度のバス利用促進イベントから規模を拡大し、創意工夫を凝らして公共交通全体の利用促進イベントとして実施した ・イベント実施を通し、多くの市民に現状を伝え、公共交通に乗るきっかけづくりを行い、新規利用者の獲得と公共交通の認知度を向上させ利用促進につなげた
その他 参考事項	・スタンプラリー実施にあたり、バス路線沿線の飲食店の協力獲得 ・市広報「いこまち」による周知に加え、「県民だより」「すぐる」 「市内全自治会」「近鉄百貨店生駒店」等多くの関係者の協力による広報・周知を実施

取組を表す図や表、写真、成果物など





表彰 対象者	所属	福祉部 地域包括ケア推進課
	職名	主任
	氏名	杉谷彰彦

推薦者	所属	福祉部 地域包括ケア推進課
	職名	課長
	氏名	知浦太一

課題	福祉で働くケアマネジャーの育成に貢献
----	--------------------

該当事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☒ 地域貢献	☐ その他（
--------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	--	-------------------------------

項目	内容
取組概要	主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)の職能向上を目的として、奈良県社会福祉協議会からの推薦を受け、週休日や休日に、生駒市内外から要請があったケアプラン点検や個別指導を行う。 令和6年度にはケアプラン点検以外にも奈良県介護支援専門員更新研修(実務未経験者コース)の講義・演習の講師として人員育成に貢献している。
取組効果	ケアプラン点検を通じてケアプラン適正化や介護保険制度の適正利用に貢献するとともに、プラン作成者をサポートすることで、生駒市内外の主任介護支援専門員のマネジメント能力や指導力の向上につながっている。
創意・工夫した点	前職や行政の仕事で培った経験やナレッジをもとに、幅広い福祉の視点から他制度や分野との連携を重視した研修の講義を行っている。 また、この活動で築いたネットワークを生駒市の福祉の向上のためにも活用している。
推薦理由	福祉の専門職が不足する中、携わる職員の質の向上を目指し、多角的な見地から様々な場面で、介護の現場で中心となって働く主任介護支援専門員の育成を継続して行い、生駒市内外の福祉の発展に長年寄与しているため。
その他 参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など

地域に飛び出す地域貢献活動

週休日を利用し、生駒市内外で主任ケアマネジャーの育成を支援

○介護支援専門員更新研修の講義・演習の講師

○ケアプラン点検・個別面談指導

表彰 対象者	所属	経営企画部: 広報広聴課(泉昂佑) 総務部: 防災安全課(谷江秀隆・吉廣勇人) 地域活力創生部: 地域コミュニティ推進課(桐谷純平)、環境保全課(平尾英城)、SDGs推進課(吉村寛志)
	職名	建設部: 事業計画課(福呂直也)、管理課(新地謙策・上竹一輝・樋浦恭平)、花のまちづくりセンター(杉原廣重) 都市整備部: 都市づくり推進課(吉田一平・岩川浩平)、学研推進課(浜田智哉)、施設マネジメント課(宮脇隆一)
	氏名	上下水道部: (岡村祥宏)、総務課(鈴木満也)、工務課(高木裕文・徳岡良将)、浄水場(磯部良和) 教育部: みなみ保育園(垣内愛里)

推薦者	所属	総務部
	職名	参事
	氏名	杉浦 弘和

課題	令和6年能登半島地震に伴う現地派遣職員(21人)
----	--------------------------

該当事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☒ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	令和6年1月1日に発生した能登半島地震に対し、奈良県のカウンターパートとなった穴水町や能登町に応援職員として現地支援に向かった。
取組効果	災害発生後、被災自治体が早急に取り組まなければならない対応業務について、 現地職員を手助けし、被災住民の生活支援に大きく貢献した。 また、被災地での経験は、本市が被災した時の災害対応に活かすことができると評価。 複数の自治会等から、防災訓練開催時の派遣職員による講演依頼が来ている。
創意・工夫した点	被災地の様子や業務内容を伝える写真展の開催、広報紙への掲載。
推薦理由	冬の被災地であることや被災地までのアクセス等、現地の状況も不明な点が多く、支援側も非常に困難な状況であった中、職員は自ら手を挙げ積極的に支援に協力したこと。 また、所属においても業務調整を行い、快く職員を派遣へと送り出した。
その他参考事項	【従事した業務】 ・建物応急危険度判定: 1月12日～1月16日 ・建物被害認定調査: ①1月25日～2月1日 ②2月28日～3月7日 ③3月13日～3月21日 ・避難所運営業務: ①1月30日～2月8日 ②3月13日～3月21日 ・給水業務: ①1月31日～2月4日 ②3月19日～3月23日 ・水道応急復旧: 2月18日～2月26日 ・保健師による保健衛生活動: 2月22日～2月28日 ・罹災証明書受付発行業務: 3月24日～4月1日

取組を表す図や表、写真、成果物など

罹災証明受付発行

水道給水・応急復旧 保健衛生活動

建物応急危険度判定

保健衛生活動

水道応急復旧・給水

建物被害認定調査

避難所運営